

(単元) 評論 他者への視点「敬語への自覚, 他者への自覚)

(本時のねらい)

「敬語への自覚, 他者への自覚」の第二段落を読み, 若者言葉の内実や日本語が劣化した理由を読み取る。その作業を通し, 読解に必要な論理的な文章の構成を的確にとらえる力を身につける。本文を構造化することで「根拠」と「主張」とを確実に読み取る力を身につける。

(ICT 活用方法)

評論小説問わず, 文と文, 段落と段落には前後のつながりがあるため, 第二段落にはいる前に前段落の内容を把握する必要がある。従来は口頭での確認だけであったが, 前時の学習内容を簡潔にまとめ, 電子黒板で提示した。

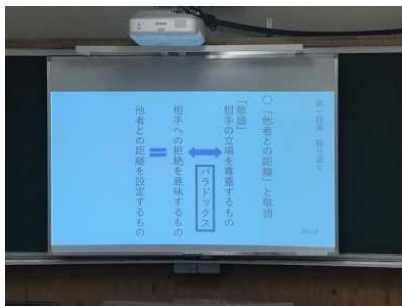
また, 同様に, 本時のねらいでもある対比的に用いられている言葉に注目させたいときも, 口頭だけの説明ではなく, ねらいを電子黒板に提示した。

本文読解においては, 従来は「教科書～ページの・・・行目」という説明であったが, 本文を電子黒板で提示し, 生徒には教科書(本文)をプリントにしたものを配布した。本文を構造的にとらえられるようにし, 生徒の発言を記号にして本文に直接書き込んでいった。教師が電子黒板に書き込むのと, 生徒がプリントに書き込むのを同時に進められるよう工夫し, 本文での重要箇所や注目すべき言葉を視覚的にとらえられるようにした。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法	備考
導入 5分	前時までの内容を復習する	指名しながら, ポイントを確認させる。	前時までのまとめのフローチャート(パワーポイント)を電子黒板に提示する。	
展開 40分	1. 読解の論理について確認する。  2. 第二段落を音読する。  3. 文の構造を書き記したものを確認する。	・論理的な読解に必要なことを説明する。  ・音読しながら構造化の作業をするよう声掛けをする。  ・指名しながら重要語や対比構造を確認し, 提示した本文に書	論理的な読みに必要なポイントを電子黒板に提示し, 音読が終わるまで出しておく。  ・本文(パワーポイント)を電子黒板に提示し, その本文に生徒の意見等を記号にして本文に書き込んでいく。	

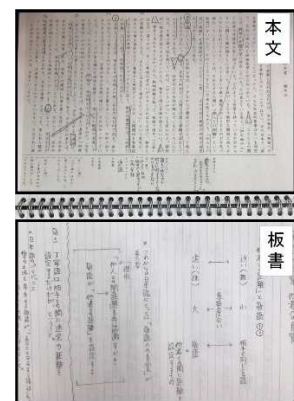
	4. 構造化したものをしながら第二段落の内容を理解する。	き込む。 ・適切な質問をしながら、個人での答えを複数人で共有させ、発表させる。		
まとめ 5分	・本時のまとめを聞く。	・第二段落のまとめをし、次時の予告および課題について説明する。		要約の課題を配布。



導入（前時のまとめを投影）



展開3（板書とICT）



ノートの使い方

（生徒の反応と課題，改善を要する点）

国語科では，本文を板書することができないため，口頭での確認や指示が今までは多かったように思う。しかし，ICTを活用することで，生徒の手元にある本文と同じものを電子黒板に投影できるようになり，生徒への指示も通りやすくなった。さらに今，何を問われているか，何をしているかが明確になり，生徒の活動時間が確保できるようになった。また，本文を投影しつつ，その本文を見ながら黒板にまとめを板書することができ，どの内容をどうまとめたのか視覚的に捉えることができるようになり，ICTの活用が読解力育成の一助となっていると感じられた。生徒の反応もよく，「本文をどのようにまとめていくのか分かった」「本文の図式化を見ることができ，どのように読んでいけばいいのか，少し分かった気がした」などという意見を聞くことができた。

その反面，本文の量によっては投影すると見づらくなってしまいうこともあるため，電子黒板に投影する文字数についても今後は考慮していきたい。また，本文に図式化できていない生徒にとっては，投影されたものから図式を映すだけになってしまっていることもあるため，基礎と応用とを繰り返しながら，今後も継続した指導が必要であると感じた。さらには，本文の理解だけでは読解力とは言えず，内容を理解したうえで，自分の言葉でまとめられることが最終目標であるため，ワークシートの工夫など，自らの考えを言語化していく取り組みへとつなげられる工夫が今後は必要であると考えます。